

船舶事故調査報告書

平成30年8月22日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	平成30年3月23日 19時00分ごろ
発生場所	沖縄県 ^{ぎのわん} 宜野湾市宜野湾港西方沖 宜野湾港北防波堤灯台から真方位265° 1.6海里付近 (概位 北緯26° 16.5′ 東経127° 41.7′)
事故の概要	ヨット ^{テレサ} Teresaは、帆走中、干出浜に乗り揚げた。
事故調査の経過	平成30年4月2日、主管調査官（那覇事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	ヨット Teresa、5トン未満（長さ8.88m）
船舶番号、船舶所有者等	296-16413沖縄、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型
負傷者	軽傷 1人（船長）
損傷	右舷船側部が大破、センターボードが脱落、マストに折損（全損）
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北、風速 約8～10m/s、視界 良好 海象：波高 約3m、潮汐 上げ潮の初期 日没時刻：18時42分ごろ
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、宜野湾港のマリーナに回航する目的で沖縄県^{いえ}伊江村伊江港を出港し、メインセール及びジブセールを張って帆走で南進した。</p> <p>船長は、沖縄県^{おんな}恩納村所在のマリーナに寄港する予定であったが、帆走の状況がよかったので、無寄港で宜野湾港のマリーナに向かうこととした。</p> <p>本船は、沖縄県^{よみたん}読谷村^{ざんぼ}残波岬西方沖を通過した後、急に風波が強くなって帆走が困難となり、船長が、全てのセールを降ろそうとしたが、強風でジブセールの一部が降ろせず、宜野湾港北西方沖で船外機を始動して針路を宜野湾港に向けようとしたが、南方に圧流された。</p> <p>本船は、センターボードが宜野湾港西方沖の干出浜（さんご礁）に乗り揚げ、船長が船外機を後進とし、アンカーを投じたが、更に圧流されて船体が停止した。</p> <p>本船は、船長が携帯電話で知人に救助を求めた後、右舷側に横転した。</p> <p>船長は、船体上で救助を待ち、通報を受けた海上保安庁の航空機により救助された後、病院に搬送され、低体温症の疑いで治療を受けた。</p> <p>本船は、本事故後、干出浜から引き出すことができず、本事故発生場所付近で解体された。</p>

	<p>本船の喫水は、センターボード下端までが約1.57mであった。</p> <p>船長は、約5年前から毎年合計約30日のヨットでの航海を経験していたが、これまで航海中に急に風波が強まった経験はなく、自身の経験では対処することが困難であったと本事故後に思った。</p> <p>船長は、携帯電話で気象情報を確認してから出港していた。</p>
分析	<p>本船は、帆走で南進中、風波が強まって帆走が困難となった際、船長が、全てのセールを降ろそうとしたが、強風でジブセールの一部が降ろせなかったことから、船外機を始動して針路を修正しようとしたものの、圧流されて干出浜に乗り揚げたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、帆走で南進中、風波が強まって帆走が困難となった際、船長が、全てのセールを降ろそうとしたが、強風でジブセールの一部が降ろせなかったため、船外機を始動して針路を修正しようとしたものの、圧流されて干出浜に乗り揚げたものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気象及び海象の変化並びに自身の経験及び技量を考慮した航海計画を立てること。